

## 福岡市立こども病院心臓血管外科

- 当院では現在4名の育成プログラム修練医（Basic：2名、Advanced-1：2名）が在籍しており、プログラムの実施要項にのっとり日々のトレーニングに励んでおります。執刀は各人の技術習得レベルに応じて、時には修練レベル以上の症例も割り当てております。当院では今回のモニタリング期間（2025年4月-9月）の手術症例数は131例で、その64%がAdvanced-2以上の症例でした。Advanced-1の術式では、BDGはNorwood術後の症例が多いため修練医の執刀機会は少なかったですが、それを除く術式では80%が修練医の執刀症例でした。前週のカンファレンスで術者指名して十分な準備期間を与え、術前ブリーフィングは手術室でタイムアウト直後に行い、術後のデブリーフィングは手術手技終了後、閉胸前に行っています。特に術



後のデブリーフィングに力を入れており、有効な視野出しや状況に応じた針の角度、持針器の使い方のみならず、手術の組み立て方や注意点をその場で図解も併用しながら指導するようにしており、次回の執刀までの改善点も話し合います。少しずつではありますが、各人が確実に進歩していることを感じております。

（中野俊秀 代表育成指導医）

- 小児心臓血管外科医生涯育成プログラム制度が開始され、我々修練医は育成指導医と共に術前ブリーフィングを行い、手術後にデブリーフィングを行い評価して頂いています。この制度を通じて自分に足りない部分、前回と比較して改善した部分を確認することが出来、その後自分が訓練すべきポイントを理解し実践することが出来ています。日々の鍛錬の一環として手術トレーニングキットのポイやcross medical社のサージカルトレーニングモデルを使用しています。ポイは丁寧で正確な運針の練習のために使用しています。またモデルを使った練習では解剖学的な特徴を確認し組織に無理なテンションがかからないように針の向きや持針器の持ち方、手首の使い方の練習をしています今後もこのプログラムを通じて自己訓練を継続しレベルアップを目指していきたいです。（原田雄章 Advanced-1修練医）

